

眼鏡処方まとめ(大まかに)

○児童・生徒(弱視がない)場合



両眼矯正視力=(0.7~1.0)位になるように！！

初めて

- ・片眼裸眼視力0.7以上で(遠見・近見)学習に困らない→経過観察
- ・片眼裸眼視力0.7以上で(遠見・近見)学習が困る } 眼鏡処方
- ・片眼裸眼視力0.7未満 } 両眼矯正視力=(0.7~1.0)位

眼鏡装用経験あり

- ・片眼鏡視力(0.7)以上で(遠見・近見)学習に困らない→経過観察
- ・片眼鏡視力(0.7)以上で(遠見・近見)学習が困る } 眼鏡処方
- ・片眼鏡視力(0.7)未満 } 両眼矯正視力=(0.9~1.0)位

○小児(弱視がある)場合



調節麻痺下完全矯正！！

- ・生理的トーンズ 0.5~1.0D 減じる場合あり

例)帝京大学医学部附属病院の場合 アトロピンは0.5~1.0D(屈折異常弱視は0.5D)、塩酸シクロペントレートは0.5D 減ずる

○成人の場合



片眼矯正視力(0.7~0.8) 両眼矯正視力=(0.9~1.0)位になるように！！

初めての円柱レンズ

- ・完全矯正が基本
- ・C-1.0D~C-2.0D までで処方(残余乱視は等価球面で補正)
- ・左右差 C-0.75D 未満で処方(等価球面值が同じ場合は円柱レンズ度数の左右差が大きくてもそのまま処方する場合もある)

球面レンズ

- ・基本的になるべく左右差2D 未満で処方(左右とも度数を下げるが優位眼が若干見やすくても良い)

不等像の改善策

- ・頂間距離を短くする。→なるべく光学中心で見て度数差によるプリズム効果の差の軽減や、CLに近づく為、拡大・縮小効果の軽減をねらう。
- ・モノビジョン法を考慮する

- ・所持眼鏡より2D 以上強める場合は、十分な装用練習が必要